

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより  
第70号  
2023(令和5)年8月26日  
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 呼称の混乱

— 鮮やかに整理、『GKZ植物事典』 —

綿に関する解説文を読んでいて困惑するのは、その呼称です。品種に関する説明は、呼称の混乱が理解を妨げる一因となっています。たとえば、農林水産省発行の「ワタ(陸地綿)の宿主情報」(2018年12月4日 <https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/tetuduki/attach/pdf/index-17.pdf>)では、見出し語として「ワタ」、「陸地綿」という呼称が用いられているのに対して、最新の綿関連書籍の一つである『生活工芸双書 綿』(2019年3月10日 農文協)では、同じ内容を説明するのに「アップランド」という呼称が主に用いられており、「陸地綿」という呼称は出てきません。

アオイ科ゴシピウム属(ワタ属)の植物は世界におよそ50種が分布しており、そのうち栽培種はバルバデンセ、ヒルスツム、アルボレウム、ヘルバケウムの4種であるという説明はほぼ共通しているものの、その先に進むと、各種文献によって用いる呼称が異なってきます。執筆者が拠って立つところ、立場や研究者としてのこだわり、視点がそうさせているのですが、読者としては戸惑うばかりです。

その混乱を鮮やかに整理してくれている資料があります。『GKZ植物事典』です。紙媒体ではなくWEB上の資料(<https://gkzplant.sakura.ne.jp/index.html>)です。今回、事典編纂者(WEBサイト管理者)の方から直接、お許しをいただくことができましたので、以下に一部抜粋して掲載させていただきます。なお、その際「記載内容の間違いや誤字・誤植も多々あるかと思われませんが、どうぞご自身で再確認をお願いします。」とのコメントが添えられていました。その点をお含みの上、ご参照いただければと思います。

ちなみに、当庵表記の「洋綿」はバルバデンセ、ヒルスツム。「和綿」はアルボレウムを指しています。

『GKZ植物事典』より (写真は木綿庵の畑で撮影。左からヒルスツム、バルバデンセ、交雑種、アルボレウム2枚。)

検索名	リクチメン (陸地綿)	検索名	キダチワタ
和名 jp	キヌワタ	和名 jp	インドワタ
漢字表記	帛綿	漢字表記	印度綿
別名・異名	ケブカワタ (毛深綿) リクチメン (陸地綿) アップランドワタ (アップランド綿) アメリカメン (亜米利加綿) トールコットン	別名・異名	キダチワタ アジアワタ ナンキンワタ
学名 sn	<i>Gossypium hirsutum</i> (編註:ヒルスツム)	学名 sn	<i>Gossypium arboreum</i> (編註:アルボレウム)
英名 en	Upland Cotton Mexican Cotton	英名 en	tree Cotton
漢名 ch	陸地綿	漢名 ch	樹綿



----- Monthly Data -----  
【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和5年7月26日～令和5年8月25日)  
茨城県2、埼玉県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和5年7月26日～令和5年8月25日)  
メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数0組0名



## 《綿の栽培記録 2023》－ 令和5年度版 その4－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和5年7月24日～8月23日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

綿が吹き始めました。8月11日に、7号畑の和綿(松阪長谷川邸種)で今季初めての開絮を確認。洋綿の初開絮確認は8月23日で、1号畑の大和高田アブランド綿でした。和綿ではその後は、大和山辺綿(赤木種)、同(青木種)、河内綿(千塚)も次々に弾けだし、洋綿の木綿庵アブランド、早島アブランドも開絮を確認しました。鉢植え、牛乳パック栽培の綿木も、順次弾けてきました。

なお、今季は化成肥料を不使用(一部の実験エリアを除く)としたことに加え、農薬も原則不使用としました(無人販売コーナーを除く)。「原則」というのは播種時にオルトランを用いているからです。その後は一切使用していません。今年も生長過程でハマキムシ(ワタノメイガ)の被害は例年通りにみられますが、アブラムシの被害が現時点まで確認されておらず、「農薬不使用」を選択しました。最終的に収穫にどの程度影響するかは、今後を見守るしかありません。

写真は左から、8月15日の台風で倒れた綿木の様子、17日の和綿(赤木種)、19日の和綿の収穫、25日の1号畑の洋綿畝。



## 《手紡ぎ糸の糊付け、糸巻き — 令和5年8月5日、13日》

経糸(たていと)に用いる手紡ぎ糸を糊付けしました。糊付けには、生麩糊(しょうふのり)、布糊(ふのり)をはじめ、工作用のでんぷんのり、小麦粉、お米など様々な糊が使われるようですが、今回は小麦粉を用いて糊付けを行ってみることにしました。手紡ぎ糸430gに対して、小麦粉220ccを水(湯)約3.5ℓで溶き、ロウソク少々を加え、糸を糊液に浸しながらよく揉みこみ、竹の棒を使って8の字に絞り、これを二度繰り返す、しっかりとさばいてから天日に当てて乾燥させました。1週間後に糸枠に巻き取り。

写真左から：糊液に浸し、竹の棒で絞る様子。糸枠に巻き取り、8枠そろったところ。



## 【綿の加工の作業記録】 (梅田 1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：令和元年, 2019年産。丹羽正行氏による打ち綿)  
令和5年7月26日～令和5年8月25日 (作業実日数3日) 糸の総量2.9g (0.8匁) 総時間19分  
※1分間≒0.153g 1時間≒9.2g (2.5匁)

## 【研修等の記録】

- 令和5年08月03日 KCNファミリーチャンネル「ほんでミーゴ」で当庵の綿畑が取材を受け放送される